

# だから、UD



## 第1回 なぜ、“UD”なの？

こんなことありませんか？「階段や段差がキツイ！」

「ベビーカーを押していると少しの段差が気になります」「50歳を過ぎて去年まで平気だった階段を思うように上ることができません」「けがをして右手が使いえなくなったらとても食事がしにくくなりました」私たちの身の回りには、少しでも体の状態が変わると不自由さを感じるものがたくさんあります。

幼いころはベビーカーに乗り、成長し、やがて歩行をつえに頼るようになり…と、私たちはみんな年齢を重ねることで確実に体の状態が変わっていきます。また、若くても、思いがけないけがで不自由な思いをすることがあるかもしれません。

「人生80年の時代」、体の状態が変化する可能性はますます増えています。

このような状況の中で、だれもが自分の体の状況にあった心地良い環境を求めています。そして、だれもが自分の個性を十分に発揮したいと願っています。だからこそ、今、「すべての人のため」というUDの視点に立った暮らしやすく豊かな社会づくりが必要なのです。



### UD (ユニバーサルデザイン)

年齢、性別、国籍(言語)、障害の有無などに関係なく、すべての人が生活しやすいよう配慮された製品、建築、環境、情報発信、サービスなどのあり方を指します。

全国三百九十五カ所のスクランブル交差点。その第一号は熊本。車に対する信号をすべて止まられたりして、交差点内を歩行者が自由に歩けるようにしたスクランブル交差点。日本に初めて登場したのは、一九六九年三月五日。なんと熊本市の旧国道五十七号にある子飼交差点が第一号なんです。

当時は、市電が子飼橋付近まで運行していた。さらに、商店街の中は車の通行が可能だったため、買物客や学生などの往来で交通渋滞は日常的。この周辺の交通事情を何とかしなければ



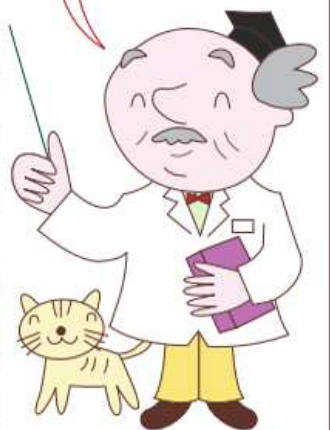
現在の子飼スクランブル交差点

熊本から全国に発信！交通安全のアイデア

# くまもと

さきがけ

# 鬼斗物語



…それは、熊本県警の最優先課題の一つでした。そんな時、当時の交通規制担当者がある提案をしたのです。「ヨーロッパには車の進入を禁止する黄色実線の道路標識がある。これを取り入れられないだろうか」かくして、交差点内をすべて車進入禁止とするスクランブル交差点が生まれたのです。道路に直角であるべき横断歩道が斜めに引かれたので、当時の人はさぞ驚いたことでしょう。しかし、これが渋滞緩和と事故防止に功を奏し、以後、全国的に採用されるようになりました。ちなみに、熊本県内には現在、二十七カ所のスクランブル交差点が設置されています。

熊本のアイデアが二輪車の標準装備に



では、交通関連での熊本が元祖の話をもう一つ。

スクランブル交差点誕生から十年ほどたったころ、左折車が左横を走っていた二輪車をひいてしまう巻き込み事故をはじめ、二輪車事故の多発が「新たな課題」として浮上してきました。例え



これら熊本のアイデアは、渋滞緩和に事故防止に大きな貢献をしているのです。

ば、巻き込み事故は二輪車が車の死角に入り、ドライバーの認識が遅れることが原因の一つです。巻き込み事故でなくとも、二輪車は一般に車より小さく、その存在に気付くのが遅れがち。防止策はとにかく二輪車が目立つようになることです。

—そうだ！いつもライトをつけていれば目立つのでは…県警職員のアイディアで、一九七九年九月の秋の全国交通安全運動から「二輪車の昼間点灯」の取り組みが始まりました。最初は、「バッテリーは大丈夫？」と面倒くさいなどの声もあったそうです。しかし実行してみると、昼間のライトは車のサイドミラーやバックミラーによく映り、かなり目立ちます。その結果、車と二輪車はお互いを確認しやすくなり、事故はグンと減りました。効果絶大です。やがて二輪車の昼間点灯運動は熊本から全国に普及。

一九九八年四月の法改正により、二輪車は構造上エンジンがかかる自動的